

北海道戸井高等学校

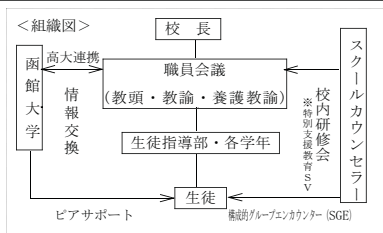
課程 全日制
学科 普通科
生徒数 64名

1 取組の特徴

- 1 全学年の生徒を対象に事前に行う教育相談アンケートの集計結果を資料として、全教員の連携による教育相談の実施
- 2 構成的グループエンカウンター (SGE) とQ-Uの結果の検証などを行う校内研修会 (年3回程度) の実施

2 取組のねらい

ことばの使い方や対人行動の仕方が適切ではなく、生徒と生徒、生徒と教師間のコミュニケーションがうまくできない生徒が増えてきており、対人関係のトラブルが発生することも危惧される。その対策として、コミュニケーション力の向上を図るとともに、アサーションスキルを身に付けさせて、個人の意思伝達能力や表現力及び他者を受容する態度を会得させる。



3 取組の経過

5月	教育相談アンケートの実施	10月	スクールカウンセラーによるSGEの実施 (1学年)
6月	1学年宿泊研修でSGEの実施 (ネイバル森) 高大連携協定締結 (函館大学) 校内研修の実施 (Q-U検討会・スクールカウンセラーの講演)	11月	コミュニケーショントレーニング③ 進路相談の実施
8月	能力開発プログラム (PX2) の実施	12月	校内研修会 (特別支援教育に関する講義・演習) コミュニケーショントレーニング④ ※高大連携に基づく函館大学学生によるピアサポート
9月	コミュニケーショントレーニング① 教育相談の実施		学校生活に係る生徒アンケートの実施
10月	校内研修会の実施 (Q-U検討会) コミュニケーショントレーニング②		独居老人宅訪問 (生徒会ボランティア活動) コミュニケーショントレーニング⑤

4 取組の内容

- 1 教育相談アンケートの実施
 - (1) 日 時: 平成23年5月6日 (金) 6校時 (LHR)
 - (2) 対 象: 全学年生徒
 - (3) ねらい: 生徒一人一人の願いやニーズについて理解を深め、必要な助言を行うとともに、今後の学習指導や生徒指導及び進路指導の充実に生かす。
 - (4) 内 容: 学習・進路・交友関係・学校生活・いじめ・家庭生活・自己性格分析・悩み事などについてアンケートを実施した。
 - (5) 成果と課題 (○が成果、●が課題)
 - 生徒一人一人の願いやニーズについて教職員が情報を共有し、指導に生かすことができた。
 - 個別の指導経過が把握できるシステムづくりが必要である。

2 校内研修会の実施

- (1) 日 時: 平成23年6月29日 (水) 放課後
- (2) 対 象: 教職員
- (3) ねらい: Q-Uの活用法や不登校生徒の心理について、理解を深める。
- (4) 内 容: スクールカウンセラーの阿部千春氏を招き、1学年を対象としたQ-Uの結果報告及び今後の対応策についての検討会、及び「Q-Uの結果の見方と不登校生徒のセルフエスティーム」講話を実施した。
- (5) 成果と課題 (○が成果、●が課題)
 - Q-U分析を基にした1学年集団の状態の把握とその具体的対応策について整理し、指導に生かすことができた。
 - 不登校生徒の心理やニーズについて理解を深め、指導や支援に生かすことができた。
 - 特別支援教育やカウンセリングマインドなどに関する研修が必要である。



校内研修会の様子

3 構成的グループエンカウンター (SGE) の実施

- (1) 日 時: 平成23年10月26日 (水) 6校時
- (2) 対 象: 1学年生徒
- (3) ねらい: 生徒の人間の触れ合いや自他に対する理解を深めるとともに、円滑な人間関係を培う。
- (4) 内 容: スクールカウンセラーの阿部千春氏がコーディネーターとなって実施した。



SGEの様子

<エクササイズ内容> テーマ: いろいろな自分・友達の見え

- ① 男女ペアになり、向かい合わせて「馬・牛」の役になり、コーディネーターの合図でゲーム (たたく・よける) を行う。
- ② 男女ペアになり、向かい合わせて同じ質問 (「一番大切なモノは何ですか?」) を繰り返して、40秒間で答える。
- ③ 「タコハチ」: 4人グループで、4つの限られた動作を使い、指名された人が次々と動作を続ける。
- ④ 「アドジャン」: 4人グループのジャンケンでゲージ (0)・1・2・3・4・5を出し、合計の数にあったテーマについて話し合う。
- ⑤ 「気になる自画像」: 4人グループで、予め用意された60種の形容詞から3つを選び、自分と他3人のメンバーの特徴に当てはめて話し合う。
- (5) 成果と課題 (○が成果、●が課題)
 - 普段かかわることの少ない仲間や異性との触れ合いが深まるとともに、学校生活にまつまづっている仲間を理解し、思いやる態度が見られるようになった。
 - SGEに関する教職員研修を深める必要がある。

5 次年度に向けて

- 1 成果
 - (1) 教職員のスキルアップ

全学年を対象にQ-Uを2回実施し、分析結果や課題に対して様々な観点から具体的な指導の改善が図られ、特に学習指導においては、平成23年度学力等実態調査の学習状況等調査で、「学習に対する意欲がある」と答えた生徒の割合が平成22年度より24.6%向上するなど、生徒一人一人の学習意欲の向上に結びつけることができた。
 - (2) 生徒のスキルアップ

管理職も含めた全教職員による教育相談と進路相談を行い、生徒一人一人の願いやニーズの把握に努め、また、1学年は宿泊研修と校内で2回SGEを実施し、より良い学級集団の基盤づくりに努めたことから、一人平均の欠席日数が平成22年度の7.4日から平成23年度は5.4日に減少し、学級不適応の悩みの相談などで4月～12月に保健室に入室する一人平均の回数が平成22年度の6.2回から平成23年度は5.4回に減少するなど、学校や学級への帰属意識が高まったほか、悩みを仲間同士で解決する姿が見られるようになった。
- 2 課題

SGEやコミュニケーショントレーニングを継続し、培った力を学校内外で発揮し、応用できる機会を設ける必要がある。
- 3 次年度に向けて

生徒の実践的なコミュニケーション力を発揮する場として、インターンシップやボランティア活動、大学生との交流活動などを意図的、計画的に実施する。